



きょう除幕式 多胡地区の隆盛など紹介

養蚕の歴史を後世に伝えようと、高崎市吉井町多胡の龍源寺（渡辺龍道住職）は、眉の形をした石碑「蚕影山縁起碑」を寺の山門北側に建立した。29日には檀家ら約100人が参加し、除幕式と蚕を供養する蚕影山例祭法要が行われる。

同寺は、養蚕に御利益のある蚕影山大権現を祭り、地域の信仰を集めている。蚕供養や養蚕の発展を願い、その恩恵に感謝する例祭は400年以上続く地域の伝統行事で、毎年春に行われている。

みかげ石製の碑の大きさは、横193cm、縦175cm。「明治大正昭和時代は蚕影山例祭日には…参拝者が繭玉を手を成し蚕影山の最盛期を迎えた」一と当時の様子などが紹介されているほか、養蚕をはじめとする産業が盛んだった多胡郡や寺、養蚕の歴史が刻まれている。

「多胡早生という蚕の飼育用の桑があるくらい多胡地区は養蚕が盛んで、お蚕さまのおかげで、地域は発展してきた。その養蚕の功績を残したかった。住民からも養蚕の歴史を

残したいとの要望が多かった」と渡辺住職。

養蚕農家は、現在では大幅に減ってしまったが、例祭は地元の檀家らによってしっかりと受け継がれている。